



Materiality Card

maxell
Within the Future



昨今、環境問題を中心とした社会課題は深刻さを増し、
SDGs(持続可能な開発目標)への関心が高まっている中、
企業に対する社会課題の解決やESG(環境、社会、ガバナンス)の
取り組み要請が高まりつつあります。

特に、お客様のニーズの先にある社会課題の解決は、
企業にとっての事業機会であり、中長期的な価値創造につながるものです。

マクセルグループは、どのような社会課題や経営課題に
優先的に取り組んでいくべきかを明確にするため、
「マテリアリティ(経営の重要課題)」を2021年に特定しました。

マクセルグループは、これまでと同様に社会課題を解決し、
新たな価値創造を続けるため、新たにマテリアリティのKPIを2022年に特定し、
その取り組みを加速させてまいります。

独創技術によるイノベーション創出



アクションプラン	ターゲット(製品・技術・活動)	KPI
新たな価値を生み出す 独創技術の進化	独創技術＝「アナログコア技術」を活用した、成長分野における新製品・技術開発強化(全社技術の結集、開発リソース最適化、次世代開発技術仕込み)	次世代開発技術に関する特許資産数： 5年で1.5倍
効率的なR&Dのための マーケティングの強化	「アナログコア技術」を活用した 成長分野における重点施策製品の採用促進、 シナジー創出の加速化 ●4極グローバルマーケティング強化 ●クロスセル強化	高収益なA,B事業売上高比率： 50%超(2023年度)
新事業を生み出すための パートナーシップの強化	「アナログコア技術」を活用した 成長分野重点施策製品の共創パートナー獲得	新規事業の売上高比率： 15%超(2030年度)

成長事業を通じた社会課題の解決



アクションプラン	ターゲット(製品・技術・活動)	KPI
5G/IoT関連ビジネスを通じた、高度情報社会への貢献	●筒形リチウム電池の長寿命化と用途拡大 ●次世代型全固体電池の開発・普及	
ヘルスケア関連ビジネスを通じた、先進医療や健康分野での貢献	●世界各地の高温/低温環境での住宅防水性/気密性向上製品・技術の普及 ●新規ヘルスケア商品群強化 ●AFID(空間浮遊ディスプレイ)	注力3分野、成長13事業の全体の売上高の伸び率：10%(2023年度)(2021年度比)
モビリティ関連ビジネスを通じた、高信頼性センシングによる安心・安全な社会への貢献	●真空成形用発泡シート ●車載用次世代ハイブリッドレンズユニット開発	

価値を生み出す人・組織づくり



アクションプラン	ターゲット(製品・技術・活動)	KPI
人を活かす マネジメントの強化 (人財戦略構築、適材 適所・タレントマネジ メントの推進)	人・組織全体のパフォーマンスの最大化を図るタレン トマネジメントの仕組みの構築	タレントマネジメントシステム： 2022年度導入
	人財のもつ能力・スキルを最大限発揮するための、 上司と部下の適切なコミュニケーションの維持・継続	キャリア面談実施率： 100%
0から1をつくる、プロア クティブな人財を創出 する人財育成・評価の 仕組みの構築	求める人財を明確にした採用と、プロアクティブな人 財が活躍できる配置ができる仕組みの構築	人財ポートフォリオ策定
	チャレンジングな目標設定とチャレンジを適切に 評価するマネジメント力の向上	評価者教育： 2回/年
ダイバーシティ&インク ルージョンの推進(多 様な人財活用と異なる 価値観の受容)	多様な人財一人ひとりが、生き生きと活躍できる職場 風土の醸成による従業員満足度の向上	従業員意識調査 総合満足度の向上： 90%以上(2026年度)
	性別・国籍等の属性に捕らわれない採用及び登用の 維持・継続	女性新卒採用： 事務系50%、技術系25%以上
業務プロセス標準化に よる生産性向上と技能 継承の推進	一人ひとりの仕事のやりがいの向上による生産性の 持続的な向上	従業員意識調査 仕事のやりがい度の向上： 90%以上(2026年度)
	生産性向上と技能継承を促進するための、リスキル (Re-skilling)教育の実施	デジタルリテラシー(基礎) 教育プログラムの実施:全社員対象実施

顧客価値の最大化



アクションプラン	ターゲット(製品・技術・活動)	KPI
顧客課題の先にある社会課題を解決するモノづくりへの変革	顧客課題の先にある社会課題＝未だ解決できていない課題と想定し、マクセルにとって「未知のモノづくり」を想定 これまでのモノづくりを活かしながら新しい施策を取り入れたモノづくりの推進	高収益なA,B事業売上高比率: 50%超(2023年度)
正道に基づいた品質と製品安全を最優先する仕組みの構築	これまでのモノづくりを活かしながら新しい施策を取り入れた(他社の生産設備や体制を使っの)モノづくりにおいて必要とされる品質の確保	SQM (Super Quality Management for Maxell Group) の推進とPS(製品安全)事故ゼロの継続
マクセルブランドのコアとなる製品・サービスの価値向上	これまでのモノづくりを活かしながら新しい施策を取り入れた「顧客価値を最大化する」製品・サービスの価値向上をめざす	顧客フィードバックについてのフォーマット統一化を2022年度に実施。以降継続改善を進める

環境活動による経済価値の創出



アクションプラン	ターゲット(製品・技術・活動)	KPI
環境技術・環境配慮型製品の強化	対象:マクセル製品・サービス 活動: 2023年度までに新評価基準の設定、評価フォーマット化といった仕組みを構築する ①減量化 ②長期使用性 ③再利用・再資源化 ④分解・処理容易性 ⑤環境保全性 ⑥省エネルギー性 ⑦SDGs貢献 等	社会課題や環境課題に対する貢献度を示す基準を定義して、サステナビリティ推進に見える化していく。 次期中期経営計画に具体策を盛り込む
省資源・省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入促進	対象:CO₂排出量(国内事業所 Scope1&2) 活動: ①事業所での省エネ活動推進 ②再生可能エネルギー(自家消費)推進	CO₂排出量: 2030年度 50%削減 (2013年度比) 国内 再エネ比率: (=再エネ使用量/全電気量): 2030年度 10%
	対象:廃プラスチック(国内事業所) 活動: 2023年度までに目標と取組み内容を決める ①ケミカル・マテリアルリサイクル ②生産性向上による廃棄物抑制	事業所から排出される廃プラ削減への貢献(ケミカル・マテリアルリサイクル)の検討を始め、次期中期経営計画に具体策を盛り込む

事業ポートフォリオ経営の強化



アクションプラン	ターゲット(製品・技術・活動)	KPI
市場成長・事業収益の2軸(ABC-XYZ管理)による、継続的な事業ポートフォリオ改善	対象:全事業 活動: ABC-XYZオペレーションを4半期ごとにPDCAを回す モニタリング、各事業のランクアップに向けた施策の策定、アクションのフォローアップ、次年度の新ランク決定等	高収益なA,B事業売上高比率: 50%超(2023年度)
市場の変化を先取りするポートフォリオ戦略の実行	対象:新規事業 活動: ①アナログコア技術に立脚した新事業の特定 ②毎月のモニタリング実施	新規事業の売上高比率: 15%超(2030年度)
グローバル生産拠点の効率化の推進	対象:全事業 活動: ①経営幹部と経営戦略本部を中心に、生産効率向上に関する方向性を決定 ②機会とリスクの観点からマクセルグループにおける最適な生産拠点を追求	最適地生産及びポートフォリオ最適化という観点から拠点ごとの現状の課題や将来の可能性等について議論を進め、中長期経営計画の具体策に盛り込む

グループガバナンスの強化



アクションプラン	ターゲット(製品・技術・活動)	KPI
グループ経営における 実効的なガバナンスの構築 (マネージメントの深化)	対象: リスクマネジメント 活動: ① グループワイドな課題共有と対策 (事業責任者参画) ② リスク低減活動: 情報セキュリティマネジメントや リスク管理委員会を通じた活動推進 ③ ダイバーシティやワークライフマネ ジメントの強化	全社横断組織の活動強化と適切なリ スクマネジメントシステムの運用強化 などを通じて、グループ・ガバナンスの さらなる強化を図る
グループシナジーを最大化する ガバナンスの実践 (技術、情報、マーケティング)	対象: 技術、情報、マーケティング 活動: ① 戦略共有 (国内外グループ会社ごとの定例会) ② MI(Maxell Innovation)活動 (イノベーション創発の全社取組み) を通してシナジーの最大化 (1)新開発テーマ(2)新生産技術に よる融合技術や製品の創出(3)知 財横串化による共同出願など	グループワイドでのマーケットや顧客 の情報共有及びグループ内技術の融 合などを通じて、未来に魅力ある価値 を創出する。 マクセルグループとして基幹業務の IT基盤を統合(2027年度)



VISION

独自のアナログコア技術で、
社員・顧客・社会にとっての

Maximum Excellenceを創造する

カードデータの
ダウンロード



2022年11月 初版第一刷発行

発行元／マクセル株式会社 コーポレート・コミュニケーション本部 サステナビリティ推進部

